

第 8 8 回 まちづくり夜楽塾記録

「広がるひまわりの笑顔の輪」

塩崎明子さん(ひまわり2525プロジェクト)
平成 21 年 11 月 21 日(土)16:00 ~ 17:30

ひまわり 2525 プロジェクトとは

ひまわりプロジェクトを始めて今年で 4 年目。現在 20 代、30 代を中心に約 20 名のメンバーで、硬くいうと「ひまわりを通じ、自然と共に人との交流の場を生み、豊かな心とニコニコ笑顔が溢れるまちづくりを目指す。」という趣旨で活動をしている。参加すること、行動することはとても大事なことで、誰でも気軽に参加できることがこの会のメリットでもある。ひまわりの醍醐味は、1cm ほどの種が 2 ヶ月で 2~3m の大きさに成長することで、育てている私達まで元気をもらえるところに魅力を感じる。

活動記録

・活動 1 年目(2006 年)

素人ばかりで始めた 1 年目は、静岡文化芸術大学南側の馬込の小さな空き地を市役所から借りて始めた。以前は工場が建っていた場所で、草も生えていない踏み固められた土地をトラクターやつるはしを使い耕した。結果はまばらに咲いたひまわり畑になってしまった。

・活動 2 年目(2007 年)

国道一号線沿いの飯田町の畑(田んぼ)300 坪を借りて馬込と平行して作業を行い、今度は見事なひまわり畑ができた。

・活動 3 年目・4 年目(2008 年、2009 年)

米津町の遊休農地 3000 平米を紹介された。楽しく種蒔きをしようとアーティスト(さときちさん)の生ライブを開催し、約 50 人の大人数で種蒔きをすることができたが、ほとんどがヒヨドリに食べられてしまい翌週蒔き直すことになってしまった。ヒヨドリ対策として前面にネットを張ったが、前回の残っていた種からも芽が出て今度は間引きをするのに大変だった。肥料は昨年、牛、豚、鶏、化学、無肥料の 5 つのエリアに分け実験し、一番成長が良かった豚の肥料を使い、今年も 3 万本のひまわりが咲き、昨年は約 3000 人、今年は開花祭りの 3 日間までに約 1500 人以上が足を運んでくれた。

また、今年の収穫祭では、私たちの想いを広げようと風船に種を付けて飛ばしたところ、藤枝のお茶農家から「種を拾ったよ。」と返事をもらい、ひまわりの写真を送ったり、お茶を頂いたり新たな交流が生まれた。

ひまわりでつながる地域交流

採れた種は、浜松まちづくりセンター祭やアースデイはままつ、緑化祭などいろいろなイベントを通じて 4 年間で 400 袋ほど配った。また、蜷塚の障害者授産所ウィズや東小学校 3 年生の総合学習の時間、また仕事の合間を縫いメンバーが保育園や幼稚園などへも出向き一緒に種蒔きをした。

現在 3 ヶ所で活動

2 年目に成功した飯田町の畑は 3 年目は失敗に終わり、今年は、3 ヶ所、馬込と米津町、そして新たに内野小学校の北側に 6000 平米の畑を借りてひまわり畑を作っている。大体種蒔きから 90 日もすると枯れて見るも無残な姿になるが、その後、種を収穫するために頭の部分だけを取り、来年の土壌づくりも兼ねてトラクターで粉碎しながら土にすきこむ作業をする。

ひまわり油でエコ

今日は、袋井の「源氏ひまわりの里の会」の協力で手動の搾り機を借りてきたので、実際に油を絞ってみたいと思う。いずれは、ひまわりで食用油を作り地域のお店で使ってもらえたらと思っている。ひまわり油は栄養価が高く、ヨーロッパでは、食用として広く利用されている。

油搾りの実験

ひまわりの種1kgでどれくらい油が採れるのか先週やってみたところ1kgで200mlも油が採れ、私たちもこんなに採れるのかと意外だった。

まずは、油を搾る前に種と殻を分ける作業をする。カラッカラになった種を金網の上でこすり、種と殻をバラバラにし、唐箕（とうみ）という機械で風を送り殻だけを飛ばす。

お茶用のパックに小分けした種を1袋、油搾り機に入れレバーを上下させジャッキをアップし圧力をかけて搾油する。かなり力が要る作業で前回この量（200ml）を搾るのに1時間かかった。今年一緒にひまわりを植えた内野の「菜の花プロジェクト」は、利益にはならないが滋賀県の方でお金をかけて油を搾ってもらった。

今日夜楽塾に来たメンバーの自己紹介

にしさん：別のイベントに参加していた際、塩崎さんに誘われ参加した。畑に入り耕運機を乗り回すなど普段経験出来ないことをさせてもらっている。

岡本さん：造園の仕事をしていた時、インターネットに素人しかいないと書かれていたのを見て参加した。今は園芸福祉という分野の仕事をしている。

中村さん：畑で生ライブをした人のつながりで知った。不景気の中、お金を掛けなくても楽しめる場所作りがしたいと前から考えていた。この達成感を一人でも多くの人に感じてもらいたい。

ほまれ：たまたま米津の畑を見ておもしろそうなことをやっていると思い参加した。ひまわりの明るく楽しいイメージと大変なことをメンバーが楽しそうにやっている姿に魅かれた。

クッキー：友達の紹介で入った。作ったお菓子を食べてくれる人が欲しくて、お菓子を持っていったのがきっかけ。

ひまわりクイズ

ひまわりの種類はおよそ何種類？ 答：300種以上

ひまわりの原産国どこ？ 答：アメリカ

ひまわりを州の花として州旗のデザインに使っている州はどこ？ 答：カンザス州

ひまわりの種から採れる油の含有量（ひまわりプロジェクト2009年度産）は、重量費でどのくらい？ 答：約5分の1

冬の米津の畑

一年中畑を使って欲しいという要望があり、冬は野菜を作っている。素人なりにみんなで勉強をしながらいろいろな野菜を作っている。また、黄色い花ということで菜花も植えている。去年は12月末頃が満開だった。食べられる菜花を植えているので畑に寄ったついでに摘んで行ってほしい。また3月から4月にかけては玉ねぎの収穫時期なので遊びに来がてら収穫して行ってほしい。

ボトルキャップの回収

環境活動として、ペットボトルのキャップを集める活動もしている。

一人でも多くの人と希望を育てる喜びを共有したいと思いながら活動をしている。目標は、浜松の観光地になるようなひまわり畑を作りたい。なかなか進んでいないが大きな夢を持って活動をしていきたい。

質問タイム

Q：種は分けていただけるのか？

A：たくさんある。

Q：中野町の国道の下 1100 平米を国交省から「花壇にしたらどうか。」と赤土を入れてくれた。何を植えようか相談しているところでひまわりを植えるかはまだ決めていない。今日は教えを請いにきた。

Q：4月に植えて花が咲き、撤去するのは何月？

A：種を蒔く時期は5月か6月。大体2ヶ月で花が咲くので花のピークをどこに持ってくるかで変わる。袋井では「秋ひまわり」ということで種蒔きを8月の後半にして10月末開花という形でやっている。

Q：蒔く時期が違くと種の種類も違うのか？

A：品種で分ける場合もある。一般的な安い値段の品種は9月まで。切花用として一年中見かけるものは改良されていて温度さえ調整すれば育つように出来ている。

Q：菜種の種さえあれば菜種を植えて土地の力を付けたいと思っているが。

A：菜花でよければ種がたくさんある。菜花とひまわりは、科が違うので病気や害虫も違い組み合わせがとてもいい。

Q：いろいろな場所で広がりつつあるが、メンバーが増えないと聞いている。今後の展開として、場所ごとに自立してもらうのか、それともメンバーを中心に活動していくのか？

A：4年間続けているメンバーは2人。1年間大変な思いをしてまた来年も続けるかというとなかなか難しい。また冬も活動するとは思っていない人も多い。来年は3つ畑を抱えるので、担当を決め、担当になったメンバーを中心にやっていく形を取ろうと思っている。

Q：質問の核心が聞けていない印象を受けたのでもう一度聞きたい。活動の方向性についてそれぞれ独立するのか。ひまわりプロジェクトとして活動するのか？

A：ひまわりの活動全体がひまわり2525プロジェクトである必要はないと思う。地域に集まる人はそれぞれ違うので、いろいろな形の活動があってもいいと思う。もしも今後2000人3000人と増えたとき、同じ方向性でいくことは不可能だと思う。私たちは「こんな活動をしています。一緒にやりませんか。」という想いを伝え、その想いを拾った人がいろいろな形で表現していければいいと思っている。

Q：地域と最初から連携していければ負担も少なく入りやすいと思う。そうして活動が広がったときどうなるのだろうと今後も気になる。今日は、中野町の方もいるので、地域がどんな取り組みをしているのか聞けるのでは。

A：もっと自治会と連携したいと思っている。米津の場合、去年は突然始めてしまったが、今年は自治会長さんに挨拶をしたり、種蒔きや開花の案内をポスティングしたりした。今後、NPOにすることも考えているがまだ固まっていない。

Q：指導はしていただけるのか。

A：指導というほどではないが、出来る限りの協力はする。

Q：中野町は具体的に場所や計画があり話を聞きにきた。年齢層が高いので出来るか心配。

A：例えばマルチを敷けば草は抑えられる。また子ども達を巻き込んでもいいかもしれない。山梨の明野村のひまわり畑は、30haの畑を5人でやっている。もちろん機械がある事が大きいやり方次第だと思う。私たちもいろいろな経験、苦労をしてきているので、そういった意味では余分な手間を掛けない方法を教えられると思う。

最後に

メンバーも大変だと思うが、咲いたときの感動が大きくて私も4年やっている。遠くから来た友人も感動してくれて、本当に元気を与えてくれる花なので是非、中野町でもやっていただきたい。

今、保育園や幼稚園、小学校を回っているが、土にあまり触れたことのない子ども達が咲いたときの感動を表現してくれる。この活動が10年、20年後子ども達が大きくなった時「私も咲かせたい。」と言ってくれればいいし、そういう広がりもまたおもしろい。元気のない浜松をみんなで元気にしていけたらいいと思う。